



# 目的

薬物治療中の方の約8割が健康食品・サプリメント等を利用されているといわれている昨今、薬局薬剤師が、疾患を持っている患者さんに対し、薬物間の相互作用、疾病に対する影響など考慮し、健康食品・サプリメントの適正使用についてのアドバイスをを行うことが必須とされる。以上の実施に向けて現状を把握するとともに、健康食品・サプリメントの確認を行う服薬指導の効果について考察する。



# 方法

DRUG ユタカ

## 【アンケート調査】

対象：ユタカ調剤薬局（単独、併設） 23店舗

（滋賀県、京都府、大阪府、岐阜県）

調査期間：2008年3月21日～4月20日（1ヶ月）

## 【アンケート内容】

### I、患者の健康食品・サプリメント利用状況アンケート（患者編）

●服薬指導時に健康食品・サプリメントの飲用の有無等の聞き取り  
（調査票1：402）

●薬歴から調査（薬歴編）

（上記1ヶ月に来局されていない患者50名を無作為に抽出 調査票2：23）

### II、薬剤師へのアンケート（薬剤師編）

接客時、服薬指導時の健康食品・サプリメントについての対応

（調査票3：76）



# 健康食品・サプリメント利用状況 アンケート(患者編・背景)

回答者が服用している薬  
(上位10項目)

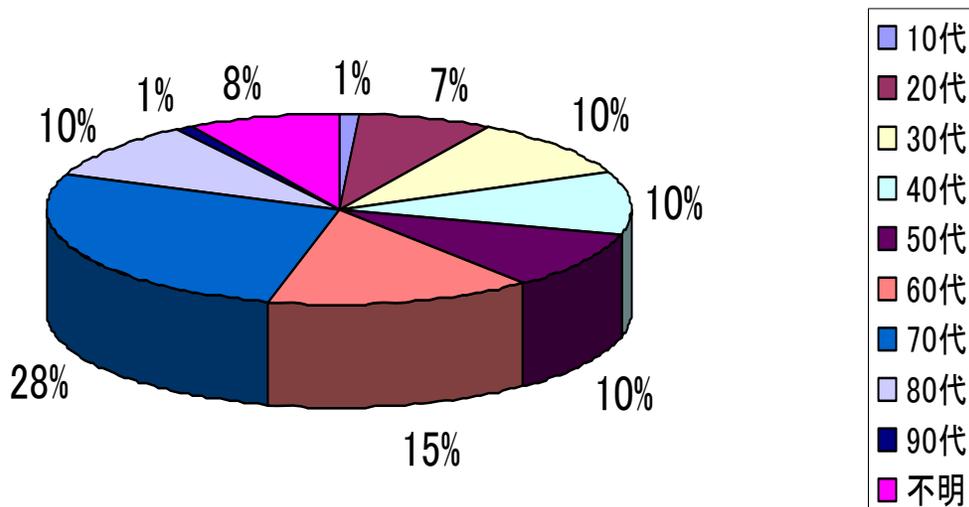
	%
降圧薬	26.4
鎮痛・抗炎症薬	12.0
脂質代謝異常治療薬	8.2
消化性潰瘍治療薬	5.4
かぜ症状関連	5.0
抗不整脈薬	4.6
催眠・鎮静薬	4.1
痛風・高尿酸血症治療薬	3.9
アレルギー治療薬	3.8
骨粗鬆症治療薬	3.0

複数回答

ユタカ調剤薬局(単独、併設) 23店舗  
(滋賀県、京都府、大阪府、岐阜県)

アンケート回答患者数 402名

アンケート回答者の年齢

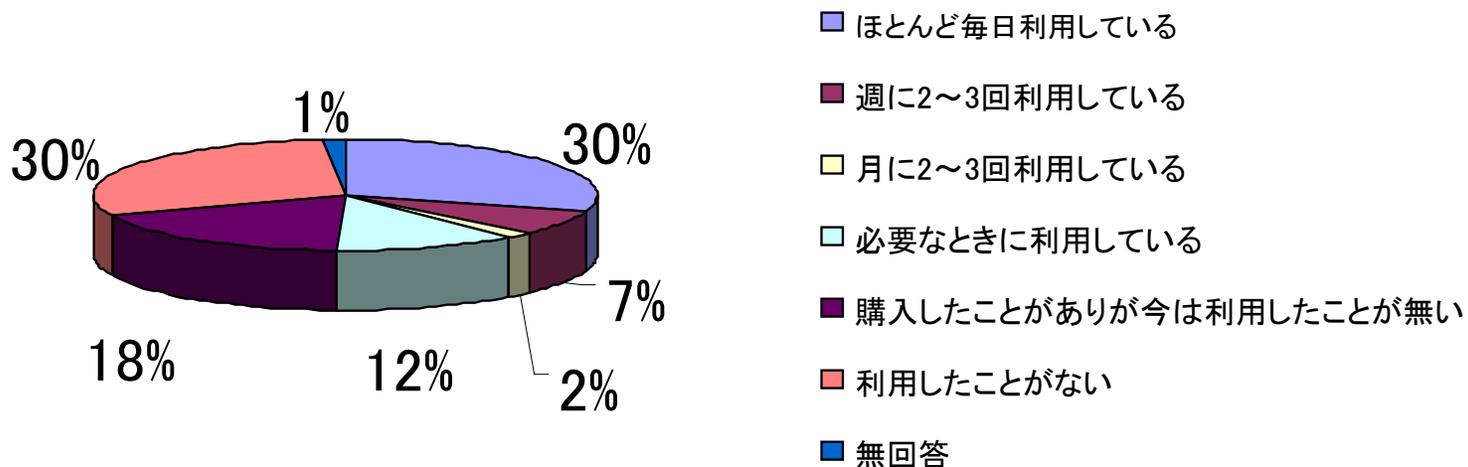




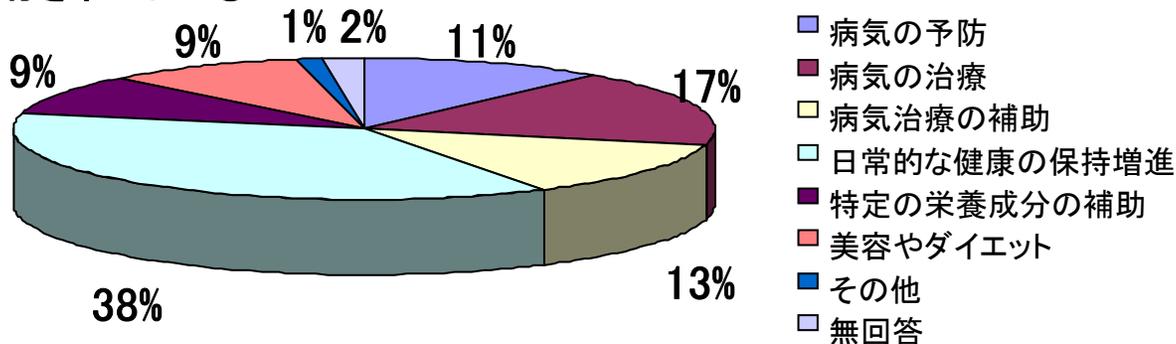
# 結果(患者編)

## 健康食品・サプリメントの利用状況

現在、健康食品・サプリメントを利用されていますか？

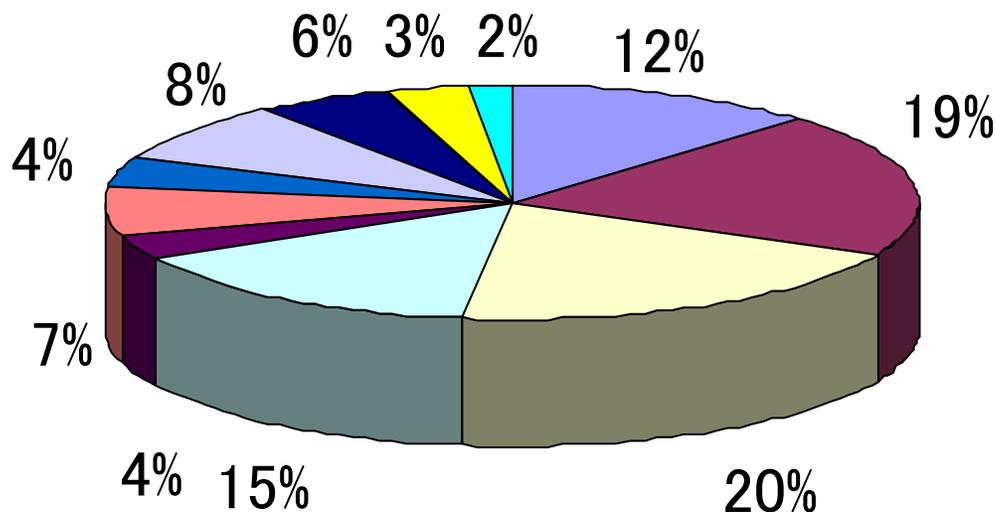


健康食品・サプリメントを利用されている理由をお聞かせ下さい。





# 結果(患者編) 利用の動機



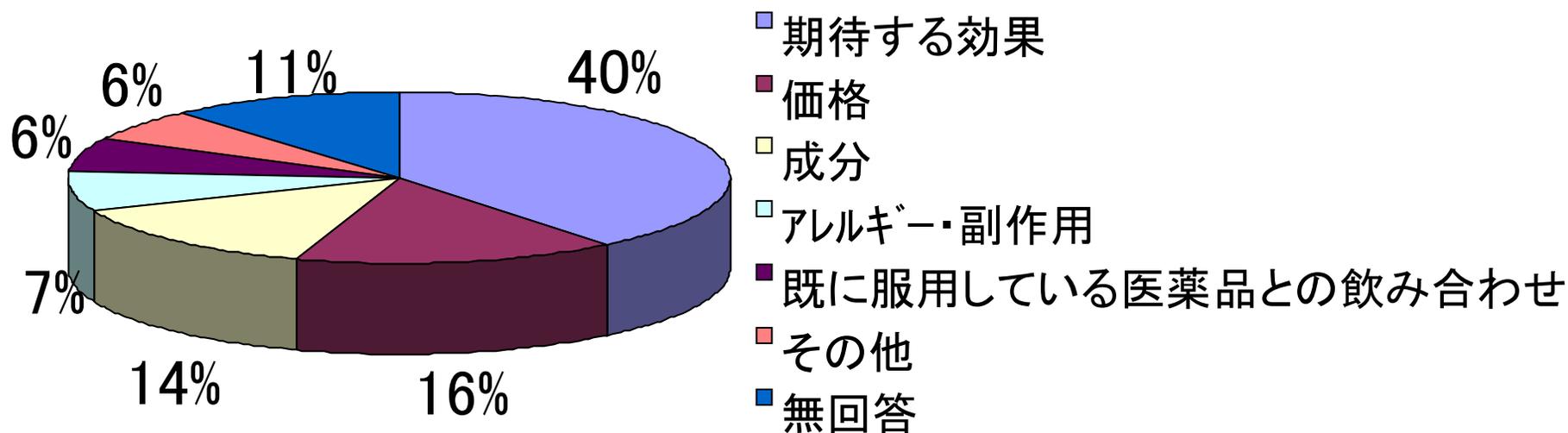
健康食品の購入のきっかけは、テレビや新聞、知人からの紹介が多い傾向にある。

- 家族・親類から
- 友人・知人から
- テレビ番組を見て
- 新聞や週刊誌を見て
- インターネットを見て
- 商品を見て
- パンフレットを見て
- ユタカの薬剤師に勧められて
- 医療関係者(ユタカ以外)
- スポーツジムなどで勧められて
- その他
- 無回答



# 結果(患者編) 利用の際の注意

健康食品・サプリメントを利用する際に 注意していることは何ですか？



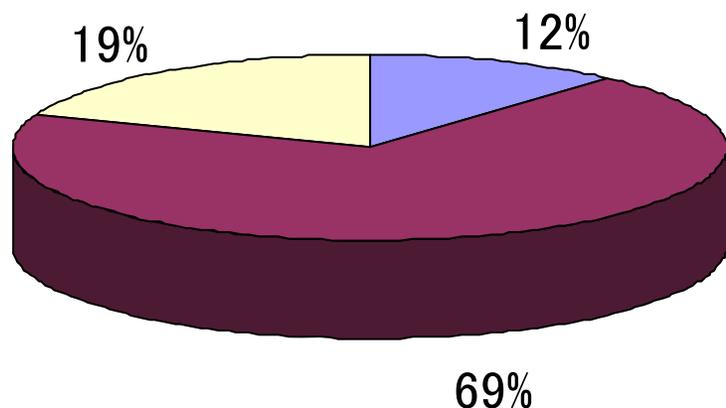
健康食品・サプリメントの飲用中止理由で最も多いのが、「効果が無い」52%、次に「経済的に負担」が21%だった。健康食品に対し、相互作用の心配よりも効果度が気になっている。



# 結果(患者編)

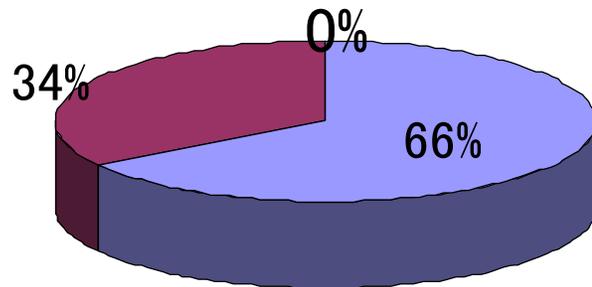
## 主治医の認知度

健康食品・サプリメントを飲んでいるか？と  
主治医から尋ねられたことがあるか？



- ある
- なし
- 無回答

主治医に尋ねられたとき、  
飲んでいるものをちゃんとつ  
たえられましたか？



- 正確に答えた
- 正確に覚えていないので、“こんなかんじのもの”とあいまいに答えた
- 飲んでいるけど、飲んでいないと答えた
- 無回答



# 健康食品・サプリメントの 利用状況まとめ

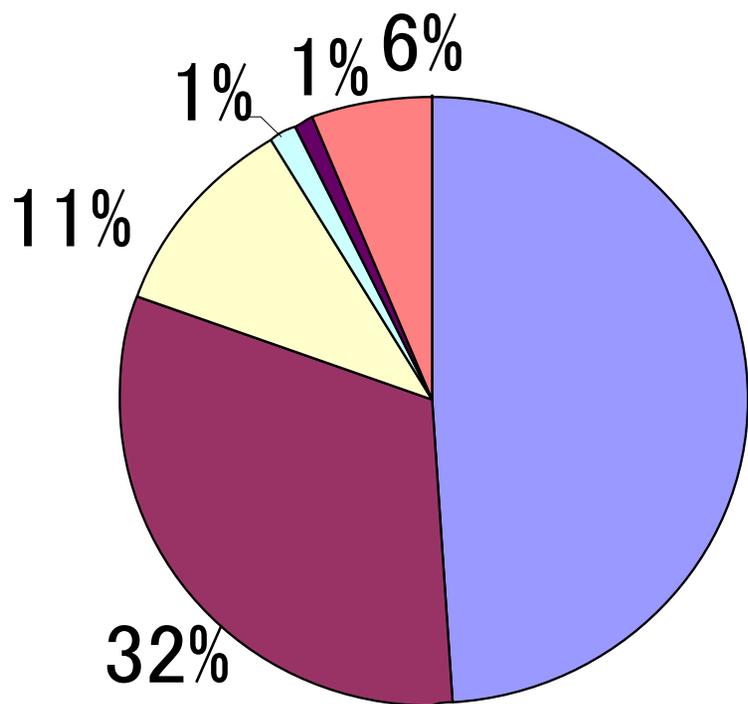
## 患者アンケート結果から

- ユタカ調剤薬局に処方せん調剤を持ってこられる患者さんの約7割が健康食品・サプリメントを服用している。
- 利用のきっかけは、新聞テレビなどのメディアによるものや知人からの勧めが多い。8%の方はユタカの勧めで購入している。
- 健康食品利用目的が健康維持、栄養補助であると回答しているが病気の治療目的と回答している人も17%あった。
- 利用のきっかけも中止も期待する効果によるところが大きく、治療中の薬物との相互作用について気になる人は6%ほどだった。
- 健康食品・サプリメントの飲用を確認している主治医は12%だった。



# 結果(薬剤師編)

## 患者からの相談内容



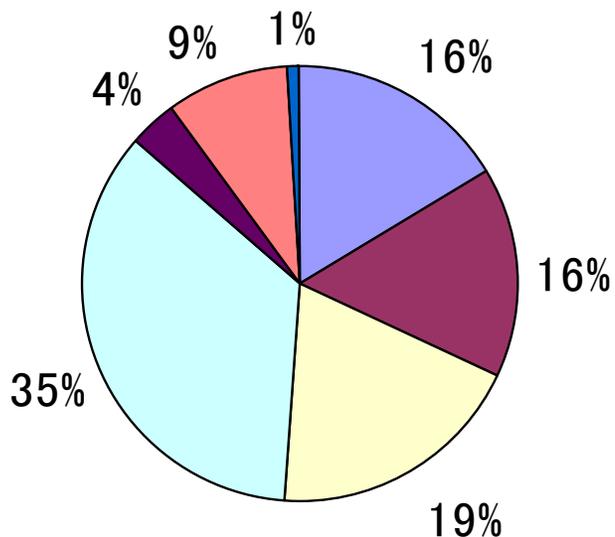
患者アンケートでは、相互作用の点について注意を払っている患者が少なかったが、薬剤師には相互作用についてたずねる率が高い

- 医薬品との相互作用
- 疾患に効果があるか
- どのくらいで効果がでるか?
- 副作用はあるか
- その他
- 無回答



# 結果(薬剤師編)

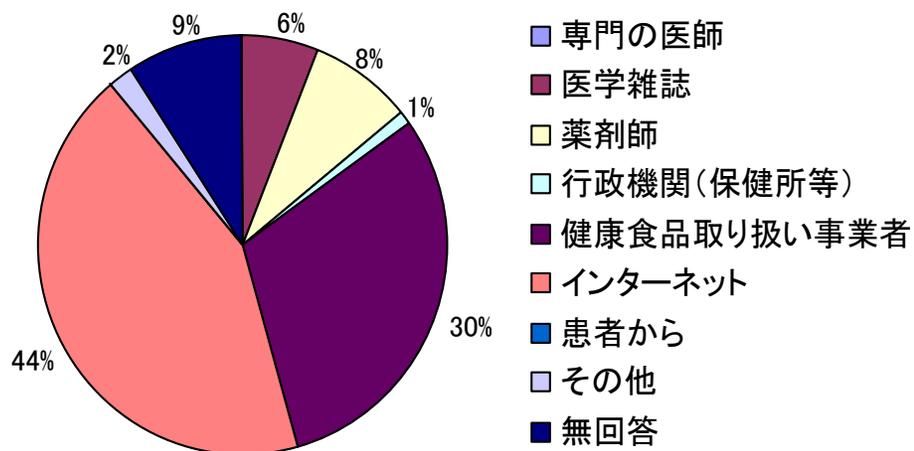
## 必要な情報と入手先



アドバイスのために必要な情報

- 過去の健康被害事例
- 成分の安全性
- 成分の有効性
- 薬との相互作用
- その他
- 特にない
- 無回答

健康食品情報入手先

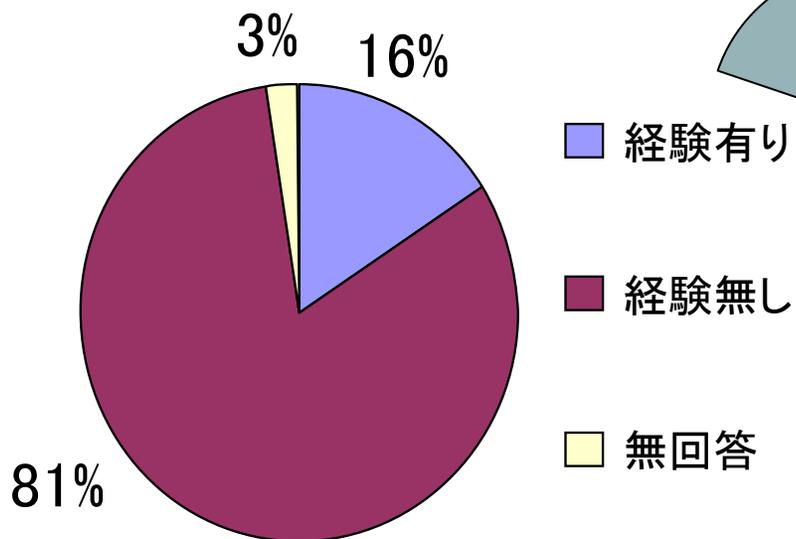


- 専門の医師
- 医学雑誌
- 薬剤師
- 行政機関(保健所等)
- 健康食品取り扱い事業者
- インターネット
- 患者から
- その他
- 無回答

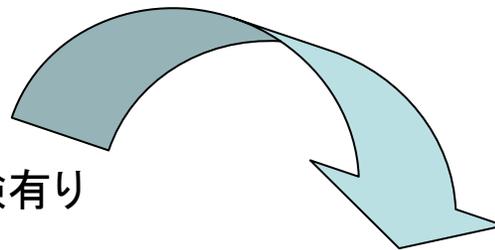


# 結果(薬剤師編)

## 健康食品による副作用症例



- 経験有り
- 経験無し
- 無回答



症状とその原因と思われる健康食品例

症状	健康食品
痛風	DNA核酸
鼻水がでる	MSM
不正出血	高麗人参
下痢	MSM
湿疹	コエンザイムQ10
発疹、かゆみ	プラセンタ製剤
胃部不快感	スピルリナ
発疹、かゆみ	グルコサミン

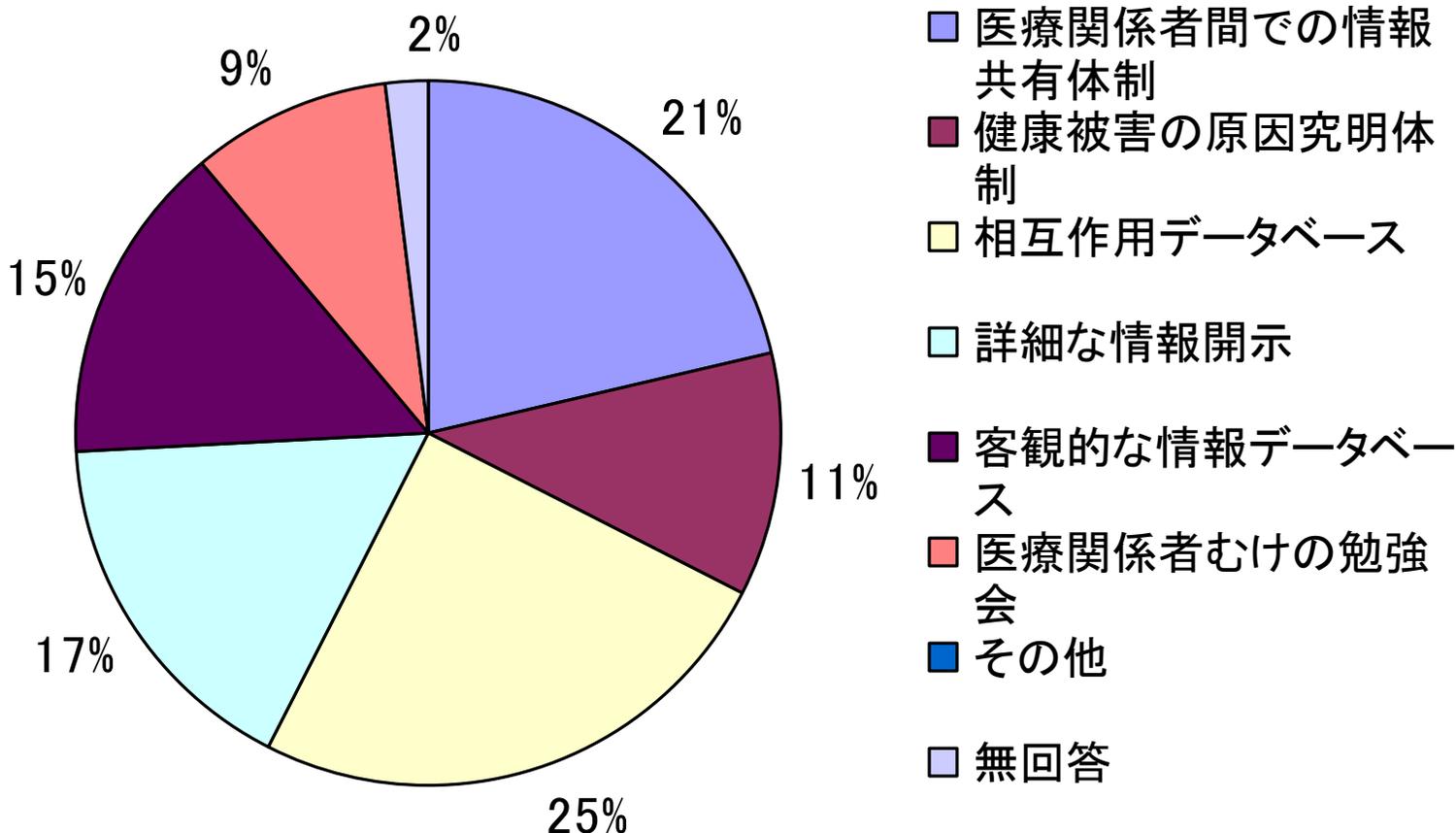
健康食品が原因と思われる諸症状を患者さんから聞いた経験がありますか？



# 結果(薬剤師編)

## 健康食品を安全に利用してもらうために

### 健康食品を安全に利用するための必要項目





# 健康食品・サプリメントに 関わる薬剤師の立場から

## 薬剤師のアンケート結果から

- ユタカ調剤薬局に勤務する薬剤師は、患者さんから医薬品との相互作用について質問されるケースが多く（49%）アドバイスには、それらの情報やデータを必要としている。
- その一方で、情報の入手先は、インターネットが一番多く（44%）、ついで健康食品取り扱いメーカー（30%）であるが、患者に安全に利用してもらうためには、客観的な情報（15%）、相互作用のデータベース（17%）、医療関係者間での情報共有体制（21%）が重要であるとしている。
- 健康食品が原因と思われる副作用の相談を受けた薬剤師が12名あった。健康食品の場合有効性の情報はある程度入手できるが、副作用の情報が少ないので、医療機関間での情報共有体制が重要であると思われる。



# 服薬指導の効果について 方法

薬歴調査から、服薬指導で

Aグループ：100%健康食品有無を確認している店舗  
(6店舗)

Bグループ：100%でない店舗(12店舗)

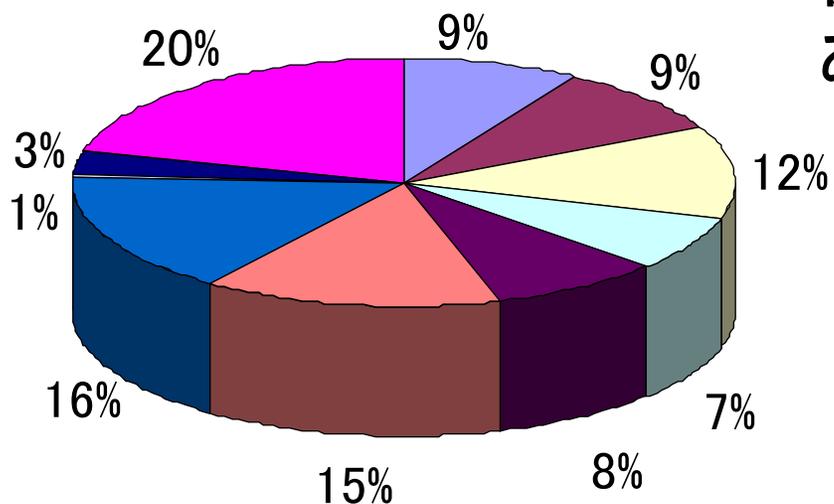
\* 下記分析内容の回答が無回答のみの店舗を省く(5店舗)

- 患者が、健康食品について**相談相手**に薬剤師を選んでいる割合
- 患者からの健康食品に関する**質問頻度**、質問が多い、またはあると答えた薬剤師の割合
- お薬手帳を**活用**している薬剤師の割合



# 服薬指導の効果(相談相手)

## 健康食品について聞きたいことがあったとき、誰に相談しますか？



相談相手に薬剤師を選んでいる割合

	アンケート数	結果 (平均%)
Aグループ	142	27.3
Bグループ	252	17.8

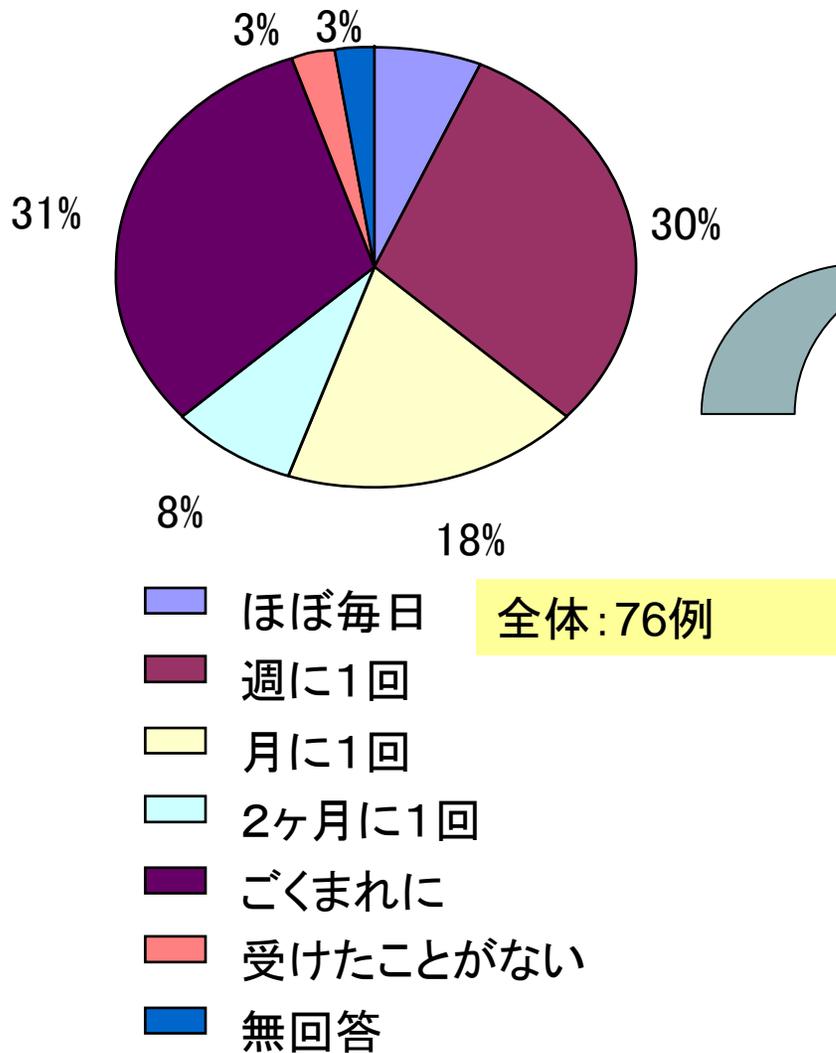
t 検定で有意差なし

全体:402例



# 服薬指導の効果(相談頻度)

DRUG ユタカ



## 健康食品に関して患者さんからどのくらい相談されますか？

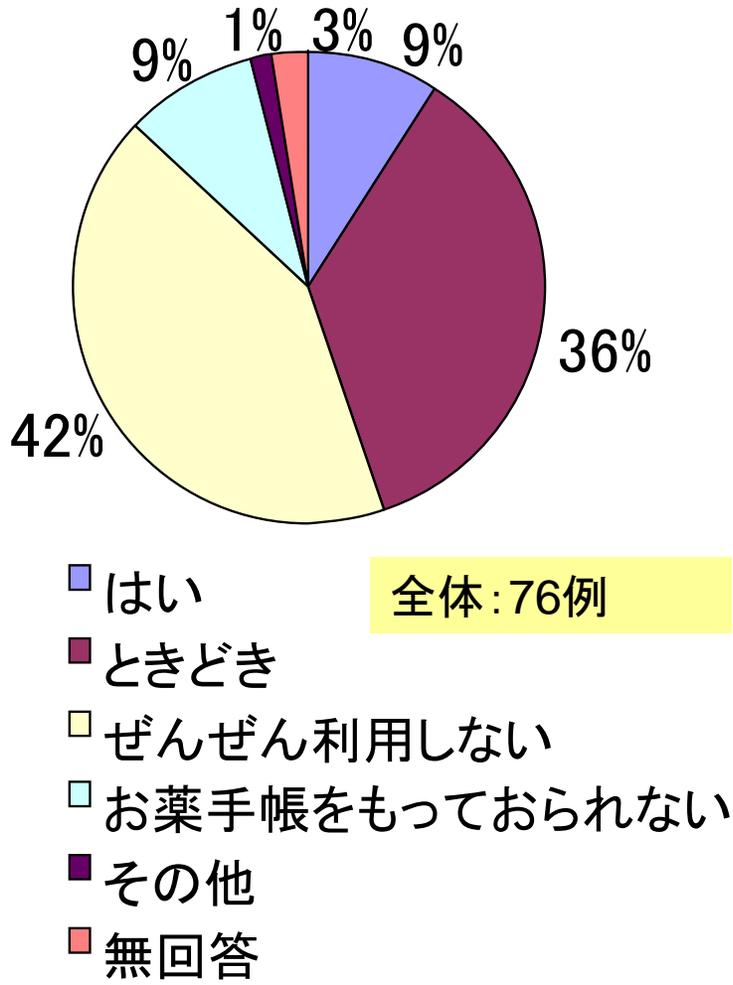
2ヶ月に1回以上相談される割合

	アンケート数	結果 (平均%)
Aグループ	19	91.6
Bグループ	42	65.3

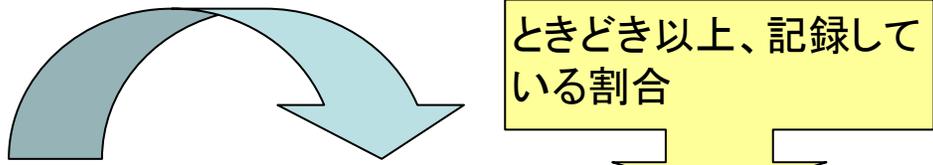
t 検定で有意差あり



# 服薬指導の効果(お薬手帳の活用)



健康食品を販売した時にお薬手帳に記録していますか？



	アンケート数	結果 (平均%)
Aグループ	19	60.2
Bグループ	42	43.0

t 検定で有意差あり



# 考 察

ユタカ調剤薬局を利用される患者さんの7割が健康食品・サプリメント等を利用されており、服薬指導にあたっては、健康食品・サプリメントの飲用確認は薬物治療上必須であると思われる。

健康食品・サプリメントの飲用有無を含む服薬指導は、患者に対し相談相手として認知度を高める傾向にあり、さらには相談を受ける回数も増えることから、服薬指導時の健康食品・サプリメントに関するコミュニケーションは重要な意味を持つものと思われる。



# 服薬指導の関与(まとめ)

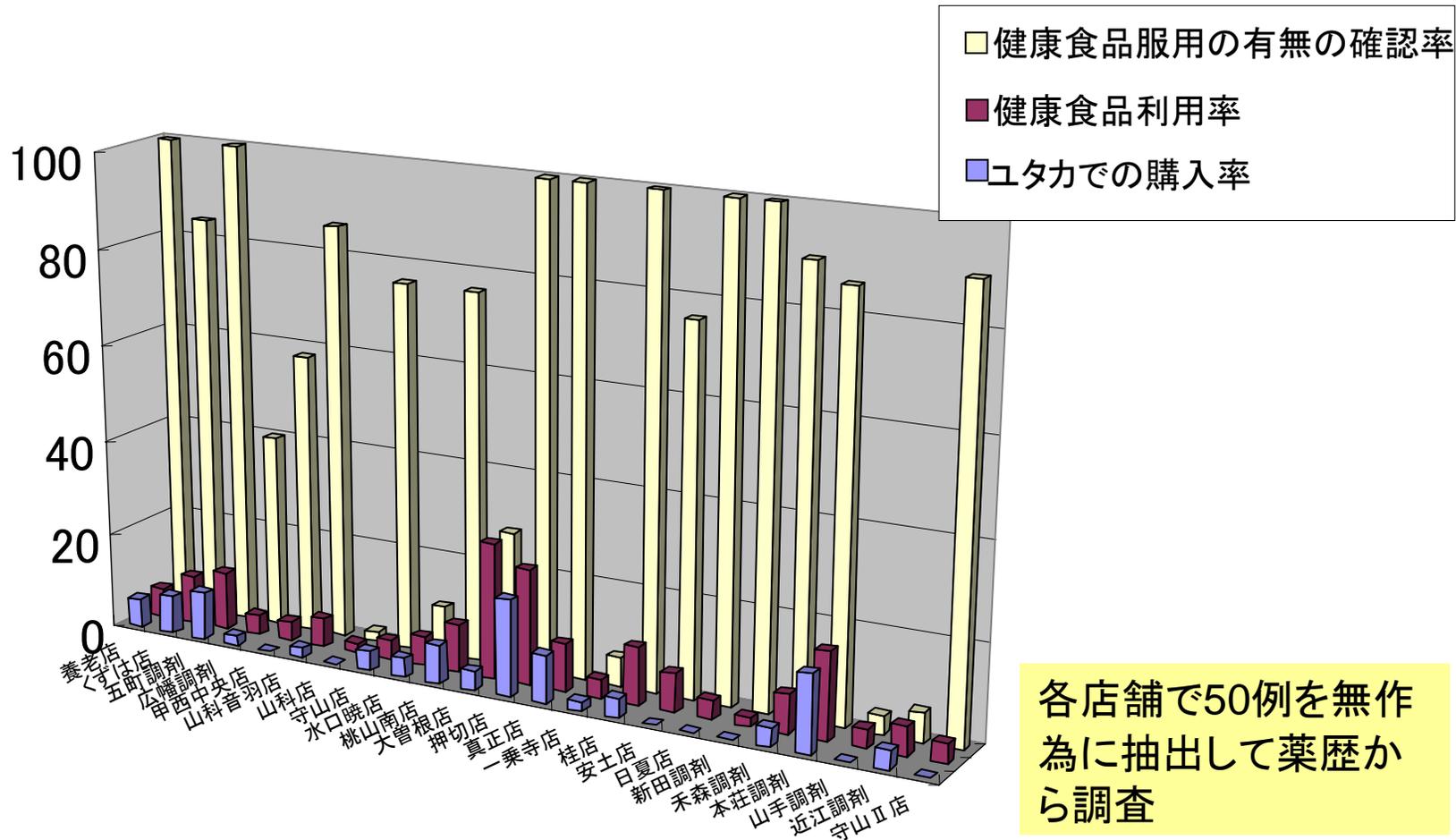
## 服薬指導時に健康食品・サプリメント状況を確認することによる

- 服薬指導は、患者が薬物治療をより有効に行うための薬剤師の情報提供もしくはアドバイスの場であることから、健康食品・サプリメントの飲用確認それに付随する情報提供は、患者が相談相手として薬剤師を選ぶ傾向が強くなることがわかった。
- 健康食品・サプリメントの飲用確認を意識的に行う店舗は、患者からの質問頻度も高く、また健康食品・サプリメントの服用管理にお薬手帳を活用する頻度も高いことがわかった。



# 結果(薬歴編)

## 薬歴から見る患者の健康食品利用状況



各店舗で50例を無作為に抽出して薬歴から調査